

最優秀賞

広島県

呉市立和庄中学校 二年

藤森 虎之介

大切な町の為に

七月五日～七日の三日間、僕達が住む町の広島県呉市は、今まで経験した事がない程の大雨が降り続き、家の近所の道路も、水が流れていく場所が無くなり、町中が川の様になりました。市内の他の地区では大量の土砂が流れ、家や車が流され、逃げられなかった多くの人が亡くなるという大変な災害に遭いました。これまでテレビのニュースでしか見た事のなかった悲惨な光景がまさか自分の町で起きてしまうなんて、とてもびっくりしたし、とてもショックでした。

やっと雨が上がった日の朝早く、父の携帯電話が鳴り始めました。父はすぐ「大丈夫。すぐ出れるよ。」と言い、慌ただしく着がえを始めました。僕の父は、僕が六歳の時から地区の消防団で活動をしています。支度をしている父に、「どこ行くん？」と聞くと、「土砂災害が一番ひどかった地区に消防団で行くんよ。行方不明の人がたくさんおるのに、道も土石流で無くなってるけん、捜索も進まんらしいんよ。これから皆で行って土砂を運ぶ作業してくるわ。」と言われました。「お父さん、こわくないん？行くん？」と言うと、「自分らの生まれて育った町が大変な時に協力するのは当たり前じゃろ。お年寄りが多い地区じゃけん、一人でも多くの若い人が行っ

て手伝わんといけんのんよ。」と言われました。父が出て行った後、「大丈夫かな。」と僕は落ちつきませんでした。

十九時すぎて、泥だらけになって帰ってきた父に被災地の写真をたくさん見せてもらいました。家族みんなで見ている時に、「テレビで流しとるより、もっと悲惨な事になっとったわ。山の近くにあって家は流れて、下の方にある家も家の中にまで土砂が入って、何がどこにあるかなんか全くわからん。」と父が被災地の状況を教えてくださいました。父の携帯に写っていた天応地区は茶色一色で全てが泥だらけになっていました。

僕は、すぐに声をかけ合い、自分の町の為に活動をする消防団は、とてもかっこいいと思いました。西日本豪雨災害から一ヶ月半。交通状況などは少しずつ落ちついてきたけど、やはり被災地には、まだ自宅に帰れず、避難所生活を送っている人がたくさんいます。

今も休日や仕事が休める時は、父の地区の消防団だけではなく、色々な地区の消防団がたくさん集まり、自分達のいる市を大切に思い復旧作業を手伝っています。僕も大人になったら絶対に消防団に入りたいです。自分の住んでいる町に少しでも力になりたいです。そして少しでも自分の育った町に恩返しをしたいです。

